

きずな



我孫子市少年センター便り 第161号

我孫子市少年指導員連絡協議会 会長 飯山初美

我孫子市少年センター センター長 戸塚美由紀

電話7185-1367 FAX7182-5867

9月2日より新学期が始まりましたが、子ども達はどのような夏休みを過ごしたでしょうか。各地区のお祭りや手賀沼花火大会が行われたり、友達同士で出かけたりと、楽しんだ子どもも多かったことと思います。少年指導員の皆さんには、暑い中、各地区で子ども達の見守りをしていただきありがとうございました。

パトロール後の報告書を見ると、夜遅くまで徘徊をしたりトラブルに巻き込まれたりすることもなく、楽しくお祭り等に参加していた子ども達の様子がうかがえ、安心しました。「子ども達の安全を守るためには、地域の大人の目がとても大切だな」と、改めて思いました。これからも、見守りをお願いいたします。



7・8月の街頭指導

少年指導員数・・・延べ126人
パトロール回数・・・21回
指導青少年数・・・6人

〈街頭指導時における青少年の行為・学識別状況〉

種別 區別	小学生		中学生		高校生		他学生		その他		合計		合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
急学指導													0
帰宅指導	2			2	1	1							6
喫煙													0
飲酒													0
たむろ													0
自転車二人乗り													0
自転車無灯火													0
その他													0
合計	2	0	0	2	1	1	0	0	0	0	0	0	6

〈6中学校区の18時以降のパトロール実施状況〉

【久寺家中区】
夏祭り会場で小中学生に声かけを行う。

【我孫子中区】
特に異状はなかった。中区では空き巣被害が出ているの注意が必要。

【湖北中区】
湖北祭りでは、小学生の姿が多くみられた。特に異状はなかった。

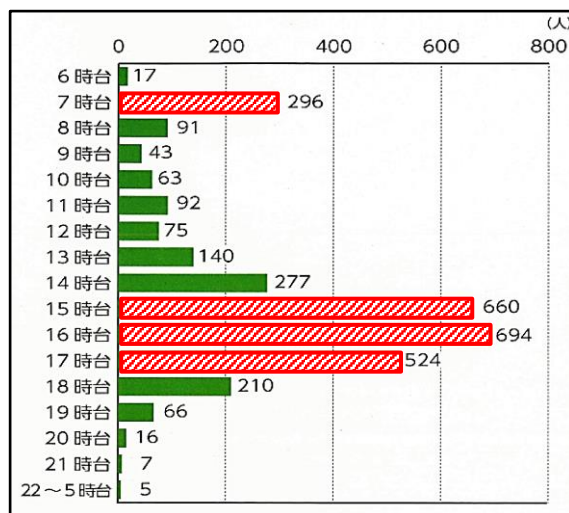
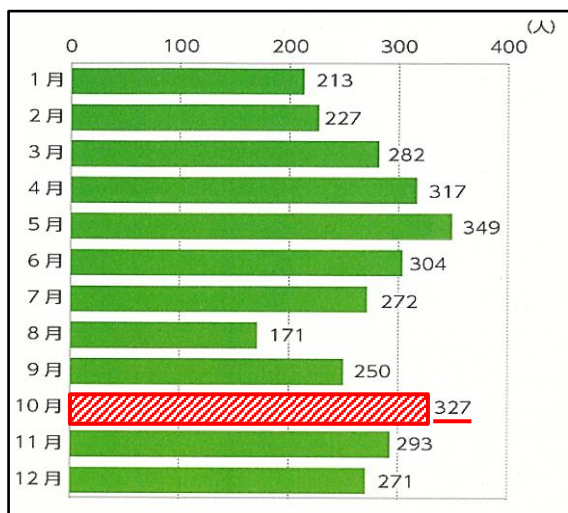
【白山中区】
ショッピングセンターで小学生を帰宅指導。通学路等で街灯が消えていて暗い場所があるので注意が必要。

【湖北台中区】
女子中学生に帰宅指導。中央公園には街灯があるが、茂みも多くあり、危険個所となる可能性がある。

【布佐中区】
部活帰りの中学生と高校生に声かけ。ウイングA棟公園にいた高校生に帰宅指導。

通学路の安全確保にご協力を！ ～秋の全国交通安全運動の推進～

9月21日（土）から30日（月）までの10日間は「秋の全国交通安全運動」の期間になります。秋口は、日没が急激に早まります。また、夕暮れ時や夜間は、重大事故につながり易いことから、「身につける 夜道のお守り 反射材」がスローガンになっています。小学生の歩行中の事故件数は10月が5月の次に多く、登下校時がそのピークを示しています。交通安全の意識を高くすることはもちろんですが、決められた通学路を歩くことも大事なことです。慣れない道にはたくさんの危険があります。また、帰宅が遅くなることも考えられます。我孫子市少年センターでは、少年指導員のパトロールや子ども見守り隊で通学路等での安全確保に気を配っていますが、ご家庭でもお子さんと一緒に交通安全について考える機会にしてください。



小学生歩行中の発生月別死者・重傷者数

小学生歩行中の時間帯別死者・重傷者数

(ともに平成26年～平成30年の合計 警察庁HPより)

大麻汚染が広がっています！ ～薬物乱用防止街頭啓発～

7月13日（土）に我孫子駅南口で、薬物乱用防止街頭啓発活動を行いました。当日は、我孫子警察、松戸保健所、防犯協議会の方と一緒に街頭活動をしました。全国の薬物事犯全体（覚醒剤、大麻、危険ドラッグ等）での検挙者数は横ばいが続く中、大麻による検挙者数は、昨年（平成30年）には過去最多の3,578人に達しました。特に、若者の検挙者が急増しています。20歳以下の割合は平成26年の4.5%から増加を続け、昨年は12.0%でした。大麻使用のきっかけは「誘われた」「興味本位」の他に「他の薬物より安全、害がない」「依存にならないからやめられる」「海外では合法化されているから安全」という警戒心を薄れさせるような誤った情報によるものが目立ちます。正しい知識をもち、誘われても勇気を出して「いらぬ！」「やらない！」と断ることが必要です。



薬物乱用防止5か条

- 1 薬物乱用は自分の心と体はもちろん、大切な人を傷つけ社会に悪影響を与えてしまう行為！
- 2 薬物乱用は「1回だけ」が重大な結果を招くと覚えておこう！
- 3 薬物乱用の危険は身近にあると知り、「自分とは関係ない」と思わない！
- 4 誘われても「NO!」と断る勇気を持とう！
- 5 困った時は一人で悩まず、両親や信頼できる大人に相談しよう！



(全国防犯協会連合会薬物乱用防止ハンドブックより)